

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

11011 U.S. PTO
09/919911
09/02/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年11月10日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-349313

出 願 人
Applicant(s):

株式会社日立製作所

U.S Appln Filed 8-2-01
Inventor: Y. Horii et al
Mattingly Stanger & Malor
Docket ASA-1017

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 7月27日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



【書類名】 特許願

【整理番号】 H00021401A

【提出日】 平成12年11月10日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04N 5/225

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 2 8 0 番地
株式会社日立製作所中央研究所内

 【氏名】 堀井 洋一

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 2 8 0 番地
株式会社日立製作所デザイン研究所内

 【氏名】 丸山 幸伸

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 2 8 0 番地
株式会社日立製作所デザイン研究所内

 【氏名】 星野 剛史

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 2 8 0 番地
株式会社日立製作所デザイン研究所内

 【氏名】 井関 大介

【特許出願人】

 【識別番号】 000005108

 【氏名又は名称】 株式会社日立製作所

【代理人】

 【識別番号】 100075096

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 作田 康夫

 【電話番号】 03-3212-1111

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013088

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯端末

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電話機能を有する本体と、カメラと前記カメラで撮影した映像を近距離無線によって本体に転送する手段を備えた前記本体と着脱可能なカメラ部とを有し、前記映像を前記カメラ部または前記本体で処理することを特徴とした携帯端末。

【請求項 2】

前記カメラ部はスピーカとマイクを備え、電話機能を有する本体と近距離無線で通信し、前記カメラ部のみで通話を可能とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 3】

前記カメラ部はスピーカとマイクと電話機能を有し、電話帳が備えられた前記本体と近距離無線で通信し、前記カメラ部のみで通話を可能とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 4】

前記カメラ部と前記本体の両方にスピーカとマイクを備え、装着時と取り外し時のいずれの場合にも前記本体側で通話を可能とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 5】

装着時に前記カメラ部と前記本体が接する個所に端子を設け、本体側の電源部からカメラ部側の電源部に電力を供給することを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 6】

装着時に前記カメラ部と前記本体が接する個所に端子を設け、カメラ部側の電源部から本体側の電源部に電力を供給することを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 7】

装着時に前記カメラ部と前記本体が接する個所に端子を設け、近距離無線を用いずに、有線で信号を送受信することを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 8】

前記カメラ部に液晶を設け、本体側の電話帳の情報を該液晶に表示することを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 9】

装着時に前記カメラ部が前記本体から落下しないようにストッパーを設けることを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 10】

装着時に前記カメラ部と前記本体が接する箇所に磁石を設けることを特徴とした請求項 9 記載の携帯端末。

【請求項 11】

装着時に前記カメラ部と前記本体が接する個所にマジックテープを設けることを特徴とした請求項 9 記載の携帯端末。

【請求項 12】

装着時に前記カメラ部と前記本体を固定する楔形のスライド式のストッパーを設けることを特徴とする請求項 9 記載の携帯端末。

【請求項 13】

前記本体と前記カメラ部の双方に開口部を設けることを特徴とする請求項 9 記載の携帯端末。

【請求項 14】

前記本体側で前記カメラ部の着脱状態が検出できる端子を備えることを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 15】

前記本体と前記カメラ部の双方にケーブル接続端子を設け、取り外し時にケーブルで信号を送受信することを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 16】

前記カメラ部に、本体のボタン操作の代替をするスイッチを設けることを特徴とする請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 17】

前記カメラ部に、本体のボタン操作の代替をするカーソルキーを設けることを

特徴とする請求項 1 6 記載の携帯端末。

【請求項 1 8】

前記カメラ部は上下対称な構造を有することを特徴とした請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 1 9】

装着時に、上下の正方向または逆方向に装着したかを検出する端子を設けることを特徴とする請求項 1 8 記載の携帯端末。

【請求項 2 0】

装着時に、正方向または逆方向に装着したかを検知する手段を設け、該方向によって、本体の制御方法を切り替えることを特徴とする請求項 1 8 記載の携帯端末。

【請求項 2 1】

前記カメラ部は、前後対称な構造を有することを特徴とした請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 2 2】

前記カメラ部は、上下非対称な構造を有することを特徴とした請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 2 3】

前記カメラ部は、前後非対称な構造を有することを特徴とした請求項 1 記載の携帯端末。

【請求項 2 4】

前記カメラ部を本体と着脱可能にし、カメラで撮影した映像を近距離無線で通信して本体に転送する手段を有し、該映像をカメラ部または本体で文字認識処理してテキスト情報に変換し、該テキスト情報を用いて情報処理を施すことを特徴とした携帯端末。

【請求項 2 5】

変換された数字列のテキスト情報を電話番号として用い、通話することを特徴とした請求項 2 4 記載の携帯端末。

【請求項 2 6】

変換されたテキスト情報をインターネットアドレスとして用い、インターネット接続を行うことを特徴とした請求項 2 4 記載の携帯端末。

【請求項 2 7】

変換されたテキスト情報を別の言語に翻訳して表示することを特徴とした請求項 2 4 記載の携帯端末。

【請求項 2 8】

変換されたテキスト情報を別の言語に翻訳して表示することを特徴とした請求項 2 4 記載の携帯端末。

【請求項 2 9】

変換されたテキスト情報をメールアドレスとして用い、メール送信に利用することを特徴とした請求項 2 4 記載の携帯端末。

【請求項 3 0】

変換されたテキスト情報をメール本文として用い、メール送信に利用することを特徴とした請求項 2 4 記載の携帯端末。

【請求項 3 1】

認識した文字を使う機能に応じて、対象文字種を切り替え、文字認識精度を向上させることを特徴とした請求項 2 4 記載の携帯端末。

【請求項 3 2】

カメラ部を本体と着脱可能にし、カメラで撮影した映像を近距離無線で通信して本体に転送する手段を有し、該映像をカメラ部または本体でパターン認識処理して特徴情報に変換し、該特徴情報を用いて情報処理を施すことを特徴とした携帯端末。

【請求項 3 3】

前記カメラ部から所有者の顔を取り込み、パターン認識処理して特徴情報に変換し、携帯端末のロック設定および解除を行い、携帯端末の他人による不正操作を防止することを特徴とした請求項 3 2 記載の携帯端末。

【請求項 3 4】

前記カメラ部から人物画像を取り込み、パターン認識処理して特徴情報に変換

し、該特徴情報と、電話番号、電子メールアドレス、住所といった個人情報と関連づけて登録し、再度人物画像を取り込み、パターン認識処理して特徴情報に変換し、個人情報を検索することを特徴とした請求項 3 2 記載の携帯端末。

【請求項 3 5】

カメラを有する第 1 の端末と、テンキーを有する第 2 の端末とを有する携帯端末であって、前記第 1 の端末及び前記第 2 の端末は、これらを物理的に一体に組み合わせて前記カメラで撮影したデータのやりとりをする際に使用する電気端子と、これらを物理的に分離して前記カメラで撮影したデータのやりとりをする際に使用する短距離無線通信手段とを有することを特徴とする携帯端末。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、画像情報をカメラから取り込み、画像情報を処理する携帯端末に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

例えば、特願平10-212022（電子カメラおよびその動作制御方法）に記載されているように、電子カメラで撮影した画像に含まれる文字列を切り出してテキストデータに変換し、メモリカードなどの記憶媒体に格納する方法が提案されている。

【0 0 0 3】

また、特願平7-117292（ビデオカメラ付き記録装置）に記載されているように、液晶ディスプレイをもつ V T R 部とカメラ部とを分離可能とし、カメラ部を V T R 部から離れた状態でも、V T R 部の液晶ディスプレイを電子ビューファインダーとして用いた撮影操作が可能ないように構成する方法が知られている。

【0 0 0 4】

【発明が解決しようとする課題】

従来の方法では、カメラで撮影した画像に含まれる文字列を変換したテキストデータを画像に関連づけて保存する方法であり、例えば携帯電話の通話やメール

、インターネット接続、個人認証といった他の機能とは無関係であった。

【0005】

また、カメラ部をVTR部から離れたビデオカメラ付き記録装置は、カメラ部とVTR部がケーブルで接続されており、操作の邪魔になる可能性があった。

【0006】

本発明の目的は、カメラで撮影した画像を用いて、携帯電話の通話やメール、インターネット接続、個人認証等の入力を支援し、操作を簡便にする端末を提供することである。

【0007】

本発明の別の目的は、カメラと本体を近距離無線で通信し、操作性が向上する携帯端末を提供することである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、カメラ部と本体を着脱可能にし、双方に近距離無線制御部を設け、カメラ部から入力された画像情報を本体側に近距離無線で転送し、本体側に備えられた画像処理部において転送された画像を、例えばテキストデータに変換し、電話番号、インターネットアドレス、メール本文といった情報として、それぞれ通話、インターネット接続、メールといった機能の入力を補助する。

【0009】

【発明の実施の形態】

(実施例)

以下、図面を用いて本発明の一実施例を説明する。

【0010】

[1] 携帯端末（カメラ付き携帯情報端末）の構成

図1に本発明のカメラ付き携帯情報端末の構成を示す。(a)はカメラ部を本体に装着したときの前面から見た図、(b)は側面から見た図、(c)は背面から見た図で、110が本体、120がカメラ部を示す。(d)はカメラ部を前面から見た図、(e)は本体を前面から見た図である。本体の111はディスプレイ、112は電話番号などを

入力するボタン群、カメラ部の113はスピーカー、114はマイク、115は上下左右のカーソルおよび決定ボタン、116はカメラ部の背面に取り付けられたカメラである。

【0011】

(f)に本体の構成図を示す。本体内部に、中央処理装置150、記憶部151、画像取り込み部152、映像出力部153、近距離無線制御部154、通信部155、電源部156、画像処理部157が備えられ、上述のディスプレイ160およびボタン161が本体前面に配置される。

【0012】

(g)にカメラ部の構成図を示す。カメラ部内部に、近距離無線制御部170、電源部171が備えられ、上述のスピーカー180、マイク181、カーソルキー182がカメラ部前面に、カメラ183が背面に配置される。

【0013】

本発明のカメラ付き携帯情報端末は、カメラ部が本体から着脱可能であり、装着時と取り外し時の両方の場合で操作が可能である。

【0014】

装着時には、本体のボタン112とディスプレイ111、およびカメラ部のスピーカー113とマイク114を用いることで、通常の携帯電話のような通話やメール、インターネット接続が可能である。また、カメラ部背面に取り付けられたカメラ116を用いて写真を撮影したり、画像処理部157において撮影した画像から文字認識を施した後、情報検索や翻訳などのアプリケーションを起動することができる。

【0015】

取り外し時には、カメラ部のカーソルキーを用いて、本体の記憶部151に格納されている電話帳から電話番号を検索し、カメラ部のスピーカーとマイクから、カメラ部側の近距離無線制御部170および本体の近距離無線制御部154を介し、通話を行う。また、カメラ部と本体の近距離無線制御部を介することで、カメラ部のカメラ116で撮影した画像を本体の記憶部151に転送する。例えば左手で本体を持ち、右手でカメラ部を持つことで、容易に写真を撮影する。

【 0 0 1 6 】

[2] 付加機能

図 2 に図 1 で述べた本発明のカメラ付き携帯情報端末に付加することができる機能について述べる。

【 0 0 1 7 】

図 2 (a) は、図 1 のカメラ部にアンテナ 201 および通信部を付加した例である。本体側からカメラ部に通信機能を移すことにより、本体を近くに待機させることなく、通話を行う。

【 0 0 1 8 】

図 2 (b) は、図 1 の本体にもスピーカー 211 およびマイク 212 を付加した例である。カメラ部がない場合にも、本体のみで通話を行う。

【 0 0 1 9 】

図 2 (c) および (d) は、本体とカメラ部に装着したときに接する端子 (221 および 222) を付加した例である。装着したときに通電するような端子により、例えば本体側の電源部の電力をカメラ側に転送したり、取り外し時には近距離無線で通信していた情報のやり取りを該端子から有線で行うことで、消費電力を節約する。

【 0 0 2 0 】

図 2 (e) は、カメラ部に小型のディスプレイを付加した例である。カメラ部で、本体の電話帳から電話番号などを容易に検索する。

【 0 0 2 1 】

[3] ストッパー機能

図 3 に図 1 で述べた本発明のカメラ付き携帯情報端末において、カメラ部を本体に装着したときに落下を防止するための機能について述べる。

【 0 0 2 2 】

図 3 (a) および (b) は、装着時に互いに密着する箇所 (231 および 232) に磁石またはマジックテープを貼付した例である。

【 0 0 2 3 】

図 3 (c) は、本体とカメラ部の双方にひも状のストラップ 353 を通すことができ

る穴（351および352）を設けた例である。

【 0 0 2 4 】

図 3 (d)はくさび型のストッパー250を設けた例である。図 3 (e)に拡大図を示す。図 3 (e)上部は取り外し時、下部は装着時であり、くさび型のストッパー255がつまみ251によりカメラ部の穴252に挿入され、カメラ部が本体に固定される。また、図 2 (c)および(d)で述べたような装着時の通電のための端子をくさび255の先およびカメラ部の穴252の奥に設け、カメラ部と本体の間の信号の送受信や充電を行う。

【 0 0 2 5 】

[4] ケーブル間通信

図 4 に図 1 で述べた本発明のカメラ付き携帯情報端末において、近距離無線制御部を用いることなく、ケーブルを用いて信号の送受信を行う例を示す。一般に無線は消費電力の負荷が大きく、小型の電源では連続使用時間が短くなるといった問題がある。そこで、無線を用いる必要のないときは、本体の背面に設けた信号線接続端子270およびカメラ部の接続端子271を結ぶ通信ケーブル272により、有線で信号の送受信を行い、消費電力を節約する。

【 0 0 2 6 】

[5] 形状の対称性

図 5 を用いて、図 1 で述べた本発明のカメラ付き携帯情報端末において、本体にカメラ部を装着する場合の形状の対称性について説明する。

【 0 0 2 7 】

図 5 (a)および(b)はカメラ部が上下方向に対称な形状をしており、上下逆に装着可能な例を示す。この場合、2対の接続端子を対称な位置に設け、正方向に装着したときと逆方向に装着したときのいずれかが判断できるようにすることにより、例えば、正方向装着時には着信可能な状態、逆方向装着時には着信拒否の状態にする。

【 0 0 2 8 】

図 5 (c)は前後方向に対称な形状をしており、前後逆に装着可能な例を示す。図 5 (d)は前後方向に対称なカメラの側面から見た図を示す。この場合も上述と

同様に、カメラ部に2対の接続端子を前後（裏表）対称な位置に設け、状態を制御する。さらに、前後逆方向に装着することにより、ディスプレイを見ながら、例えば自分自身をカメラ311により撮影する。

【0029】

図5(e)は、図5(a)および(b)とは反対に、上下方向を非対称な形状にして、上下方向逆に装着できないようにした例である。

【0030】

図5(f)は、図5(d)とは反対に、前後方向を非対称な形状にして、前後方向逆に装着できないようにした例である。

【0031】

〔6〕 操作例

図6に、図1で述べた本発明のカメラ付き携帯情報端末の操作例を示す。

【0032】

図6(a)は、装着時にカメラ部402のカメラで電話番号が記載された紙401を撮影し、文字認識により電話番号を読み取りテキストデータに変換し、本体403のディスプレイ404に表示した例である。紙がユーザーの近くにある場合に有効である。

【0033】

図6(b)は、取り外し時に同様の操作を行っている例である。電話番号が記載された紙411が比較的ユーザーから遠く、カメラから取込んだ映像を、本体413のディスプレイ414で確認しづらいときに有効である。例えば、左手でカメラ部を紙の付近に移動し、右手で見やすい位置に本体を保持することで操作性が向上する。

【0034】

〔7〕 流れ図

図7(a)に、本発明のカメラ付き携帯情報端末の処理の流れ図を示す。

【0035】

まず、500において、図7(b)に示すようなメニューをディスプレイに表示する。黒く反転しているのが選択されているモードである。

【0036】

501、502、503において、カメラ部のカーソルキーを上下に操作することでモードを選択する。

【0037】

504において、カーソルキーの中央部（決定キー）が押された場合、506以降の処理に移り、そうでない場合は500の処理に戻る。

【0038】

506において、モードが「電話番号」の場合、507において電話番号読み取りルーチン（後述、図8）を起動する。

【0039】

508において、モードが「URL」の場合、509においてURL読み取りルーチン（後述、図9）を起動する。

【0040】

510において、モードが「翻訳」の場合、511において翻訳ルーチン（後述、図10）を起動する。

【0041】

512において、モードが「関連情報検索」の場合、513において関連情報検索ルーチン（後述、図11）を起動する。

【0042】

514において、モードが「メールアドレス」の場合、515においてメールアドレス読み取りルーチンを起動する。

【0043】

516において、モードが「メモ入力」の場合、517において手書きメモ読み取りルーチン（後述、図12）を起動する。

【0044】

518において、モードが「キー画像」の場合、519においてキー画像認識ルーチン（後述、図13）を起動する。

【0045】

520において、モードが「人物検索」の場合、521において人物検索ルーチン（

後述、図 1 4) を起動する。

【 0 0 4 6 】

522において、モードが「終了」の場合、処理を終える。

【 0 0 4 7 】

[8] 電話番号読み取りルーチン

図 8 を用いて、電話番号読み取りルーチンについて説明する。図 8 は電話番号読み取りルーチンを起動したときにディスプレイに表示される画面遷移の例である。

【 0 0 4 8 】

まず図 8 (a) の 550 に示すように、カメラから入力される画像をディスプレイに表示し、電話番号が撮影された時点で決定ボタンを押下する。

【 0 0 4 9 】

図 8 (b) に決定ボタンを押す直前の画面を示す。

【 0 0 5 0 】

図 8 (c) は読み込まれた画像から文字を切り出し、電話番号部分を認識して、フォントデータに変換して表示 555 した例である。この後、さらに決定ボタンを押下することで、認識された電話番号に通話する。

【 0 0 5 1 】

[9] URL読み取りルーチン

図 9 を用いて、URL読み取りルーチンについて説明する。図 9 は URL読み取りルーチンを起動したときにディスプレイに表示される画面遷移の例である。

【 0 0 5 2 】

まず図 9 (a) の 570 から図 9 (b) の 572 に示すように、決定ボタンを押し続けて、URL を先頭から末尾までカメラで撮影する。決定ボタンを離れた時点で撮影を終了する。これは、一般に URL が記載されている文字列は横長であるため、複数の画像を取込んだ後、高解像度の画像に合成することにより、文字認識の精度を向上するためである。

【 0 0 5 3 】

図 9 (c) に文字認識によりフォントデータに変換して URL を表示 574 した例を示

す。このとき、さらに決定ボタンを押すと図 9 (d)に示すように、認識された URL のページが表示される。また、カーソルキーの下矢印を押下して該 URL を記憶部に登録する。

【 0 0 5 4 】

[1 0] 翻訳ルーチン

図 1 0 を用いて、翻訳ルーチンについて説明する。図 1 0 は翻訳ルーチンを起動したときにディスプレイに表示される画面遷移の例である。

【 0 0 5 5 】

まず図 1 0 (a)に示すように、カメラから入力される画像をディスプレイに表示 600 し、翻訳したい文字列が撮影された時点で決定ボタンを押下する。ボタンが押された時点で、取込まれた画像に含まれる文字を抽出し、文字認識アルゴリズムによりテキストデータに変換する。さらにテキストデータに対応する翻訳語を検索する。

【 0 0 5 6 】

次に図 1 0 (b)に示すように、文字認識されたテキストデータ 602 と、翻訳語 603 をディスプレイに表示する。

【 0 0 5 7 】

[1 1] 関連情報検索ルーチン

図 1 1 を用いて、関連情報検索ルーチンについて説明する。図 1 1 は関連情報検索ルーチンを起動したときにディスプレイに表示される画面遷移の例である。

【 0 0 5 8 】

まず図 1 1 (a)に示すように、カメラから入力される画像をディスプレイに表示 620 し、検索したい文字列が撮影された時点で決定ボタンを押下する。ボタンが押された時点で、取込まれた画像に含まれる文字を抽出し、文字認識アルゴリズムによりテキストデータに変換する。さらにテキストデータをキーワードとする関連情報を記憶部の中のデータベースまたは通信を介してインターネットの検索エンジンなどを用いて関連情報リストを作成する。

【 0 0 5 9 】

次に図 1 1 (b)に示すように、文字認識されたテキストデータ 622 と、関連情報

リスト623をディスプレイに表示する。ここで、カーソルボタンの上下キーで関連情報リストから閲覧したい項目を選択し、決定ボタンを押下して、関連情報の詳細のデータベースまたはインターネットのホームページを表示する（図11(c)）。

【0060】

[12] 手書きメモ読み取りルーチン

図12を用いて、手書きメモ読み取りルーチンについて説明する。図12は手書きメモ読み取りルーチンを起動したときにディスプレイに表示される画面遷移の例である。

【0061】

まず、図12(a)に示すように、カメラから入力される画像をディスプレイに表示640し、読み取りたい手書きメモが撮影された時点で決定ボタンを押下する。ボタンが押された時点で、取込まれた画像に含まれる文字を抽出し、文字認識アルゴリズムによりテキストデータに変換する。さらにテキストデータを記憶部に保存し、図12(b)に示すような確認画面を表示する。手書きメモは後で計算機などに転送するか、図12(c)に表示するように、メールの本文や題名などに用いる。

【0062】

[13] キー画像認識ルーチン

図13を用いて、キー画像認識ルーチンについて説明する。図13はキー画像認識ルーチンを起動したときにディスプレイに表示される画面遷移の例である。キー画像とは、携帯端末を他人に不正に利用されないように保護するためのパスワードや暗証番号に代わる画像のことである。

【0063】

まず図13(a)に示すように、画像を登録660するのか認識661するのかを選択する。

【0064】

キー画像登録が選択された場合、図13(b)に示すように、カメラから入力される画像をディスプレイに表示663し、所望の画像が撮影された時点で決定ボタ

ンを押下する。この際に入力された画像は記憶部に格納され、登録を確認する画面（図 1 3 (c)）を表示し、次回のキー画像認識の際に用いられる。

【 0 0 6 5 】

キー画像認識が選択された場合、例えば登録されている画像とは異なる画像を入力した場合（図 1 3 (d)）、図 1 3 (e)に示すように、一致しなかったことを伝えるメッセージを表示する。一方、正しい画像が入力された場合（図 1 3 (f)）、図 1 3 (g)に示すように、一致したことを伝えるメッセージを表示し、例えば不正利用の保護を解除するなどの処理を行う。

【 0 0 6 6 】

[1 4] 人物検索ルーチン

図 1 4 を用いて、人物検索ルーチンについて説明する。図 1 4 は人物検索ルーチンを起動したときにディスプレイに表示される画面遷移の例である。

【 0 0 6 7 】

まず図 1 4 (a)に示すように、人物を登録680するのか検索681するのかを選択する。

【 0 0 6 8 】

人物登録が選択された場合、図 1 4 (b)に示すように、カメラから入力される画像をディスプレイに表示683し、所望の人物が撮影された時点で決定ボタンを押下する。

【 0 0 6 9 】

次に、図 1 4 (c)に示すように、撮影された人物に関する名前、電話番号、電子メールアドレス、住所といった情報を入力し、撮影された画像と共に記憶部に格納される。

【 0 0 7 0 】

また、人物検索が選択された場合、図 1 4 (d)に示すように、カメラから入力される画像をディスプレイに表示686し、所望の人物が撮影された時点で決定ボタンを押下する。記憶部に格納されている人物の画像情報から画像による照合を行い、図 1 4 (e)に示すように、該当する人物情報をディスプレイに表示する。

【 0 0 7 1 】

【発明の効果】

本発明によれば、ディスプレイが備えられた本体を見やすい場所に置き、カメラ部を被写体の付近まで移動して、ディスプレイを確認しながら容易に撮影することができる。また、撮影した画像を用いて例えばテキストデータに変換し、電話番号、インターネットアドレス、メール本文といった情報として用い、簡便に通話、インターネット接続、メール送信といった機能を使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の構成を示す図である。

【図 2】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の付加機能を示す図である。

【図 3】

実施例のカメラ付き携帯情報端末のロック機能を示す図である。

【図 4】

実施例のカメラ付き携帯情報端末のケーブル間通信を示す図である。

【図 5】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の形状の対称性を示す図である。

【図 6】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の操作例を示す図である。

【図 7】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の流れ図を示す図である。

【図 8】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の電話番号読み取りルーチン示す図である。

【図 9】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の URL 読み取りルーチン示す図である。

【図 1 0】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の翻訳ルーチン示す図である。

【図 1 1】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の関連情報検索ルーチン示す図である。

【図 1 2】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の手書きメモ読み取りルーチン示す図である。

【図 1 3】

実施例のカメラ付き携帯情報端末のキー画像認識ルーチン示す図である。

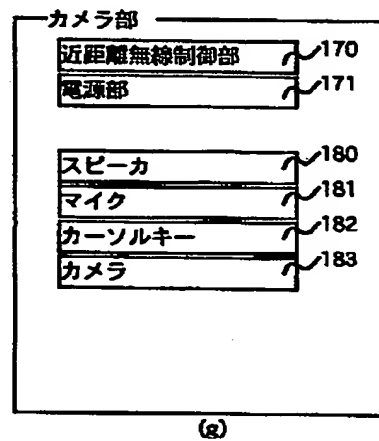
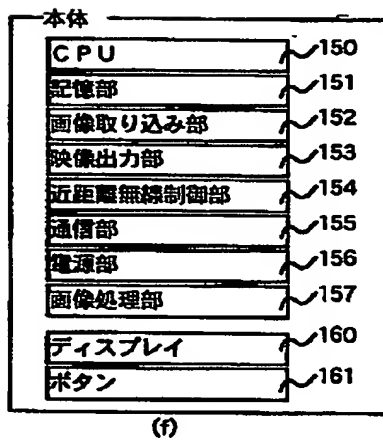
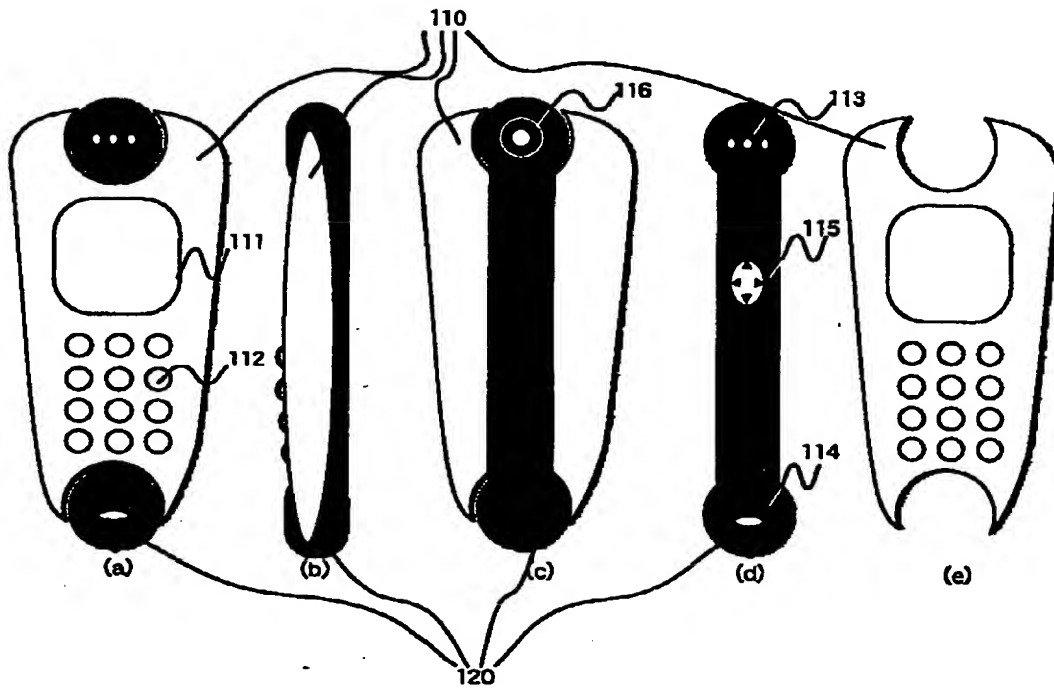
【図 1 4】

実施例のカメラ付き携帯情報端末の人物検索ルーチン示す図である。

【書類名】 図面

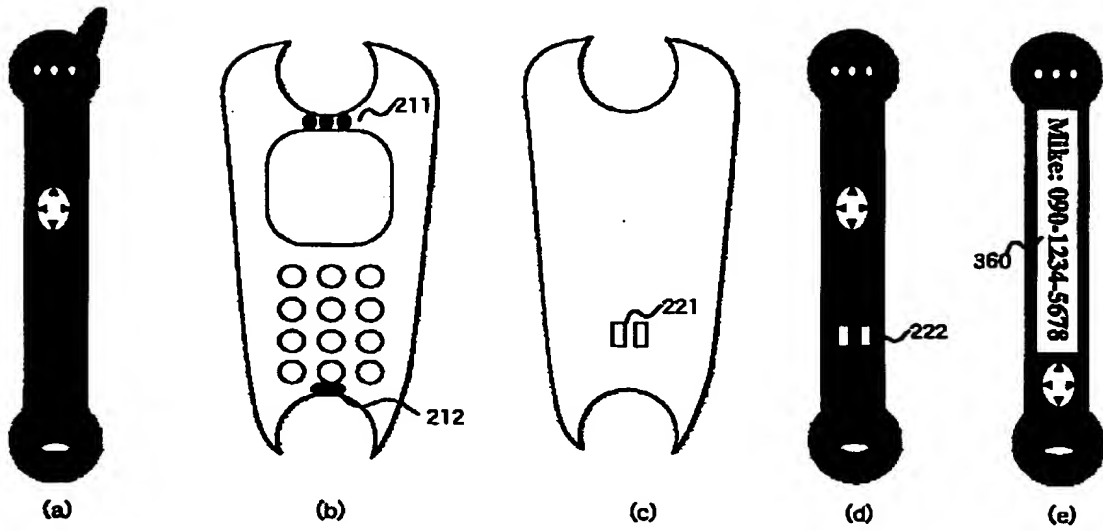
【図 1】

図 1 カメラ付き携帯情報端末構成



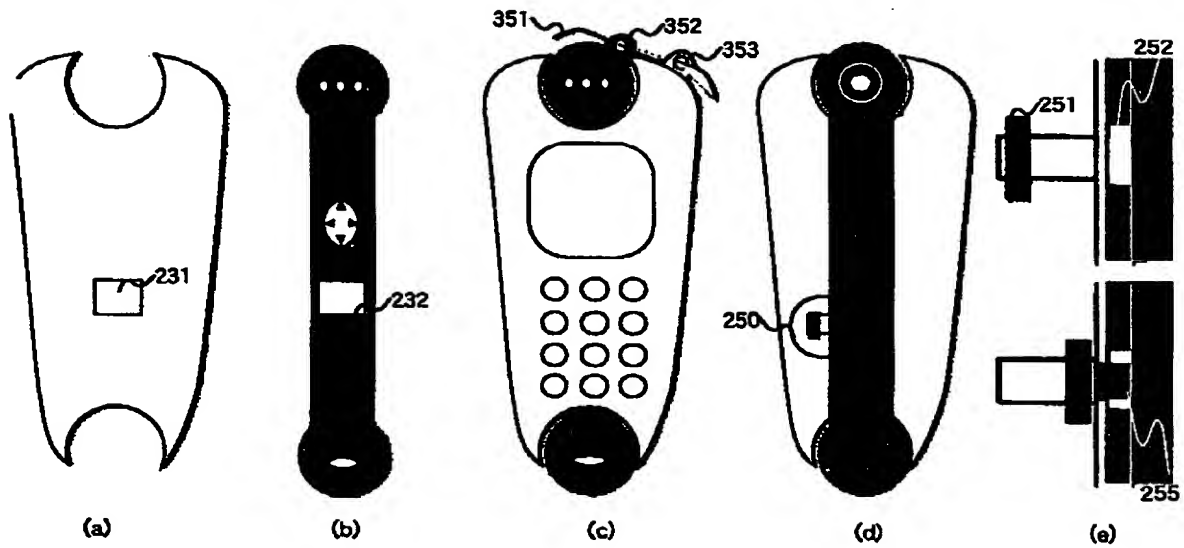
【図 2】

図 2 付加機能



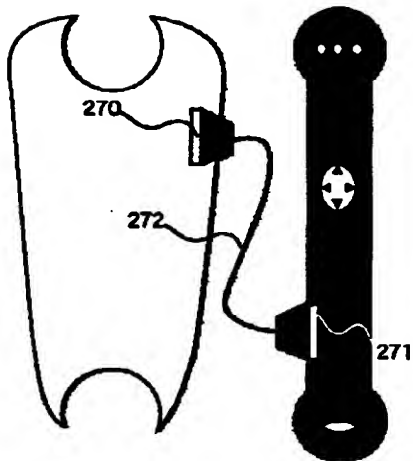
【図 3】

図 3 ロック機能



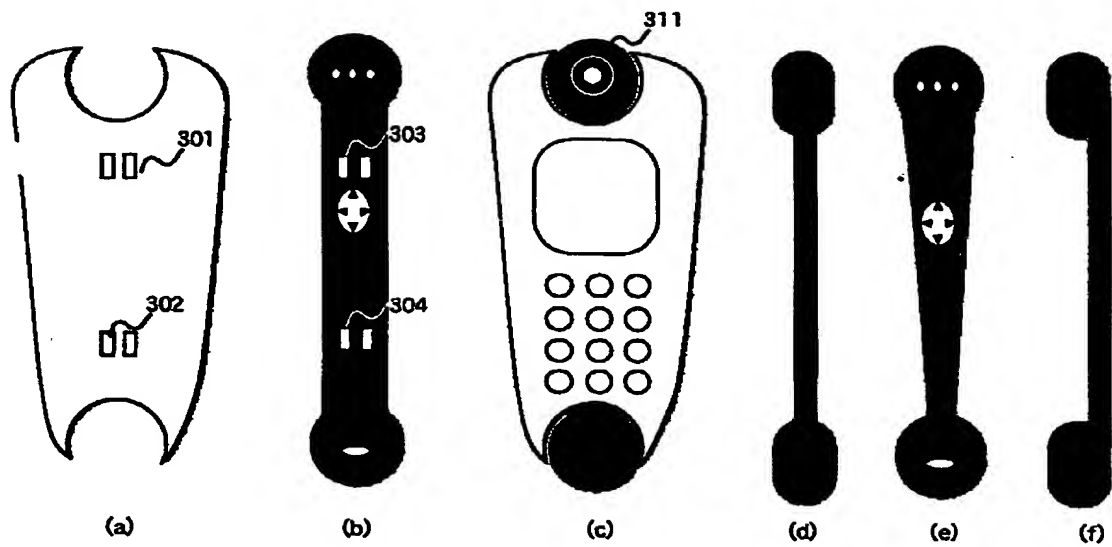
【図 4】

図 4 ケーブル間通信



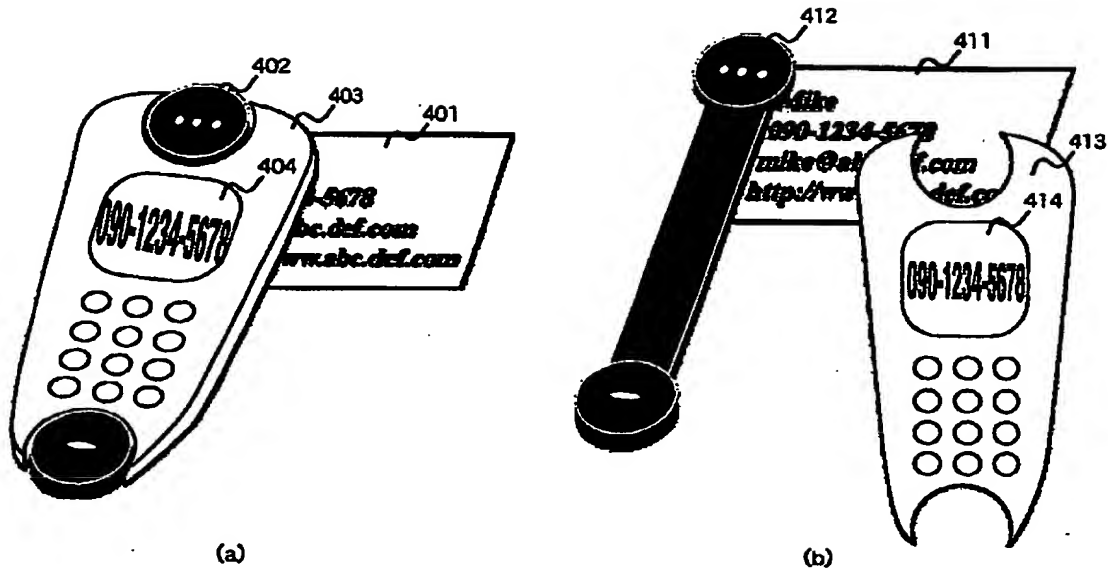
【図 5】

図 5 形状の対称性



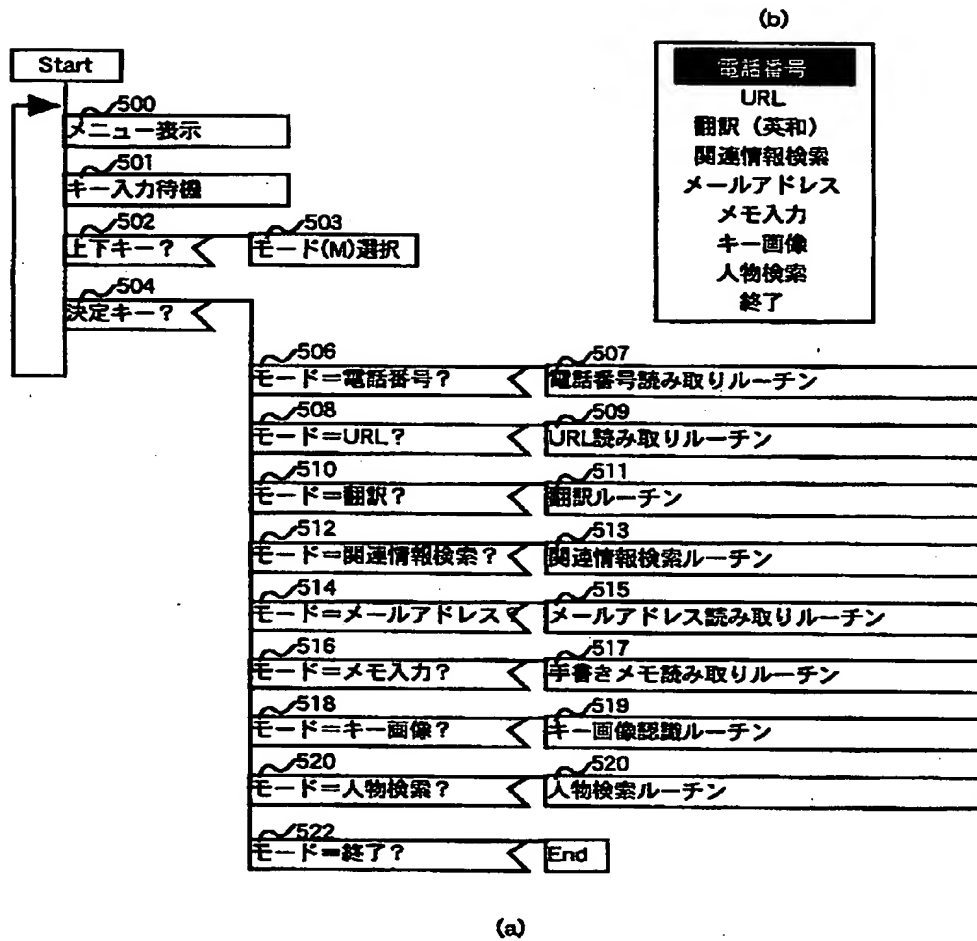
【図 6】

図 6 操作例



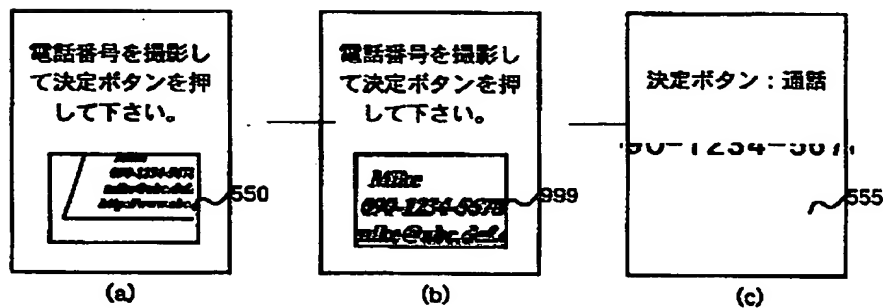
【図 7】

図 7 流れ図



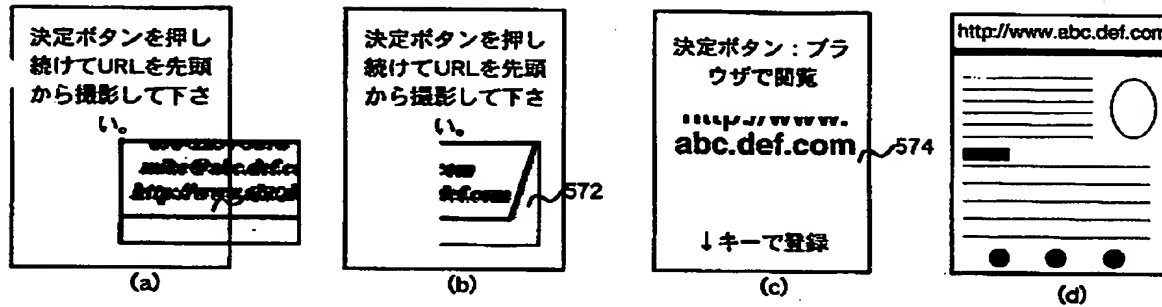
【図 8】

図 8 電話番号読み取りルーチン



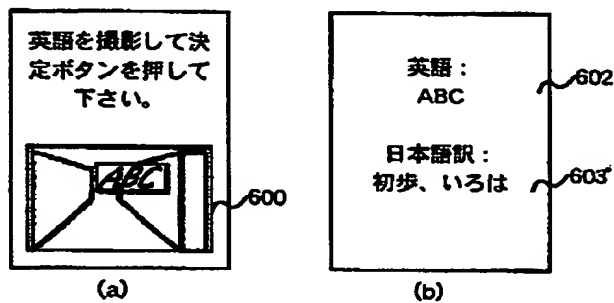
【図 9】

図 9 URL読み取りルーチン



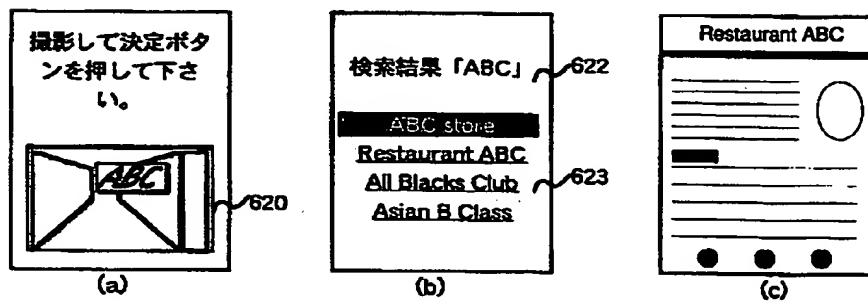
【図 10】

図 10 翻訳ルーチン



【図 11】

図 11 関連情報検索ルーチン



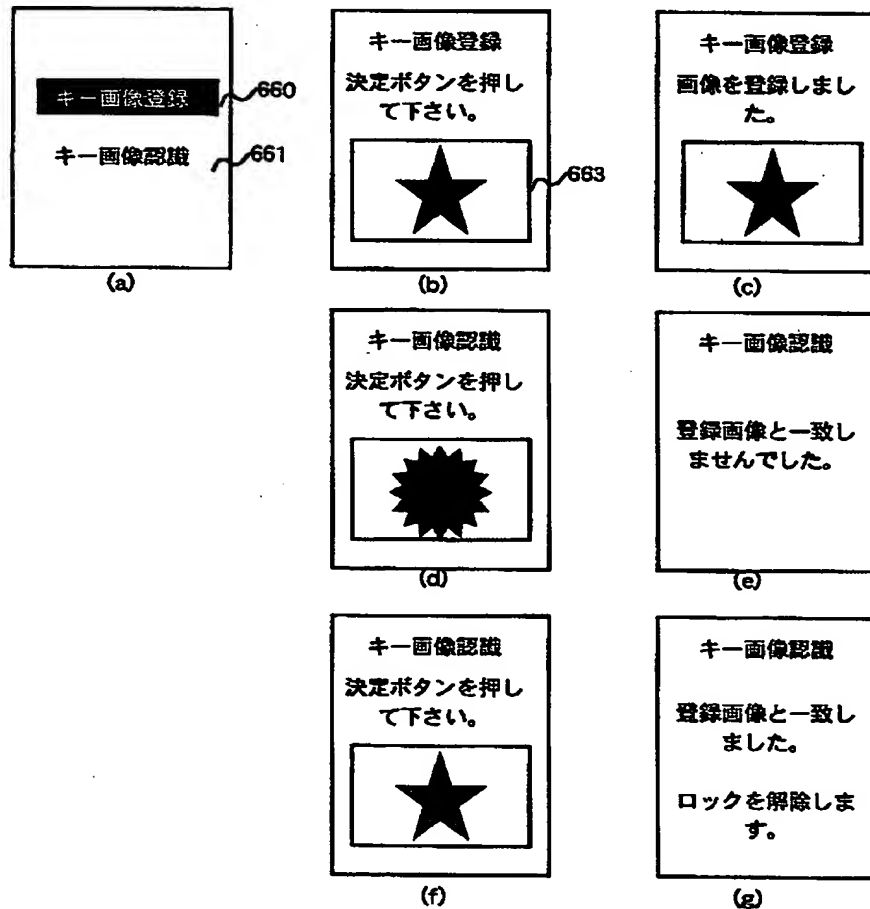
【図 1 2】

図 1 2 手書きメモ読み取りルーチン



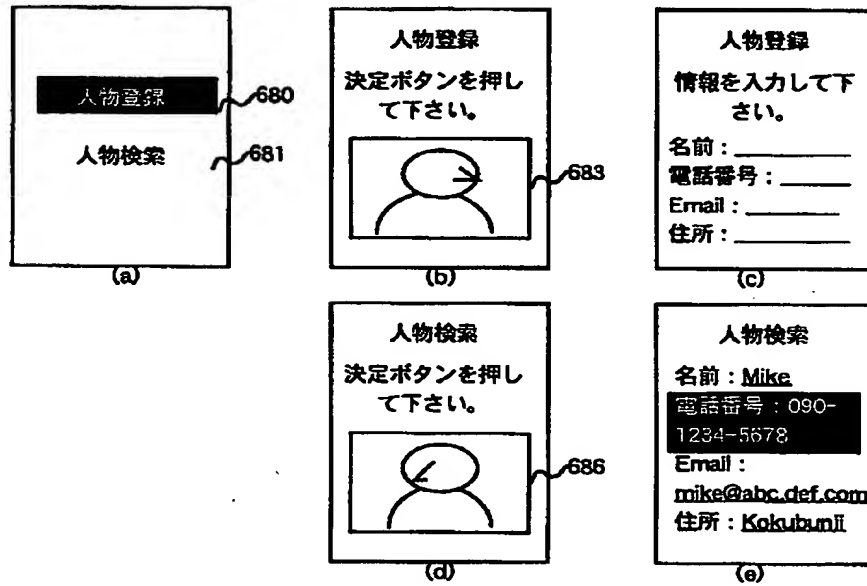
【図 1 3】

図 1 3 キー画像認識ルーチン



【図 14】

図 14 人物検索ルーチン



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 カメラと本体を近距離無線で通信し、カメラで撮影した画像を用いて、携帯電話の通話やメール、インターネット接続、個人認証等の入力を支援し、携帯端末の操作性を向上する。

【解決手段】 カメラ部と本体を着脱可能にし、双方に近距離無線制御部を設け、カメラ部から入力された画像情報を本体側に近距離無線で転送し、本体側に備えられた画像処理部において転送された画像を、例えばテキストデータに変換し、電話番号、インターネットアドレス、メール本文といった情報として、それぞれ通話、インターネット接続、メールといった機能の入力を補助する。

【効果】 本発明によれば、本体とカメラ部が近距離無線で通信されているため、ディスプレイが備えられた本体を見やすい場所に置き、カメラ部を被写体の付近まで移動して、ディスプレイを確認しながら容易に撮影することができる。また、撮影した画像を用いて例えばテキストデータに変換し、電話番号、インターネットアドレス、メール本文といった情報として用い、簡便に通話、インターネット接続、メール送信といった機能を使用することができる。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 1 0 8]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 3 1 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地
氏 名	株式会社日立製作所